

令和元年度(2019年度)

管理事業名	高齢者生きがい事業				総合計画の体系	大綱 3 福祉・健康 政策 1 高齢者の暮らしを支えるまちづくり 施策 1 生きがいづくりと社会参加の促進
主な歳出予算科目	一般会計	(款) 3	民生費	(項) 1	社会福祉費	(目) 3 老人福祉費
部局名	福祉部	予算執行所属	高齢福祉室・福祉総務課(福祉総務室)			
予算大事業名	高齢者生きがい事業					
事業の目的と概要	<p>【目的】 高齢者を迎えても生きがいをもって、地域で健康に暮らすことができるよう、生涯学習やスポーツなどを通じた生きがいづくりの活動や就労、地域活動などの社会参加への支援を進めること。</p> <p>【概要】 高齢者の生きがいづくり及び福祉の増進を図るため、高齢クラブ・地区敬老行事運営委員会等の活動を支援します。 高齢者生きがい活動センター、高齢者いこいの家、高齢者いこいの間等の施設を運営します。 地区福祉委員会が年5回以上実施したふれあい昼食会の一部に対して、(福)吹田市社会福祉協議会を通じて助成します。</p>					

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	成果指標の定義
高齢者生きがい活動センター利用者数	人	51,183	50,696	46,362	高齢者生きがい活動センターの年間延利用者数
シルバー人材センター会員数	人	1,894	1,969	2,050	(公社)吹田市シルバー人材センターの年間延会員数
成果の説明	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため令和2年(2020年)3月2日から6月30日まで休館していたことにより、年間延利用者数については減少したものの、1日の平均利用者数は平成30年度(2018年度)は174人、令和元年度(2019年度)は175人と変わらず、多くの高齢者に利用され、教養の向上や相互交流を促進し、生きがいづくりの推進が図られました。 シルバー人材センターの年間延会員数は毎年増加していますが、多種多様な技能を持つ会員確保のため、就職相談会や駅頭宣伝等を実施したことで、会員数を伸ばし、高齢者の社会参画の促進が図られました。</p>				

II 財務情報

◆行政コスト計算書

勘定科目	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額	
				B-A	
地方税	-	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	-	-	-	-
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	6,725	6,725	
財産収入	-	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-	-
その他	-	-	701	701	
経常収入 小計(a)	-	-	7,426	7,426	
給与関係費	-	-	56,314	56,314	
物件費	-	-	75,989	75,989	
維持補修費	-	-	1,362	1,362	
社会保障扶助費	-	-	580	580	
負担金・補助金・交付金等	-	-	89,571	89,571	
特別会計への繰出金	-	-	-	-	-
減価償却費	-	-	25,686	25,686	
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	-	4,381	4,381	
退職手当引当金繰入額	-	-	24,424	24,424	
支払利息	-	-	4,398	4,398	
その他	-	-	-	-	-
経常費用 小計(b)	-	-	282,705	282,705	
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	-	△275,279	△275,279	
特別収入	-	-	-	-	-
固定資産売却益	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-
特別収入 小計(d)	-	-	-	-	-
特別費用	-	-	-	-	-
固定資産除売却損	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	-	-	-	-
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	-	-	-	-
一般財源調整額(g)	-	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	-	△275,279	△275,279	
一般財源充当額	-	-	232,912	232,912	
一般会計からの繰入金	-	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-	-
再計	-	-	△42,367	△42,367	

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
物件費	高齢者生きがい活動センター指定管理委託料 12,751千円 旧吹田市山手地区高齢者いこいの間解体撤去工事 16,665千円
負担金・補助金・交付金等	地区敬老行事補助金 42,973千円 シルバー人材センター補助金 20,128千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差額	
				B-A	
行政サービス活動収入	-	-	7,426	7,426	
行政サービス活動支出	-	-	234,012	234,012	
行政サービス活動収支差額	-	-	△226,587	△226,587	
投資活動収入	-	-	-	-	-
投資活動支出	-	-	-	-	-
投資活動収支差額	-	-	-	-	-
財務活動収入	-	-	11,800	11,800	
財務活動支出	-	-	18,125	18,125	
財務活動収支差額	-	-	△6,325	△6,325	
収支差額 合計	-	-	△232,912	△232,912	
一般財源充当額	-	-	232,912	232,912	
一般会計からの繰入金	-	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の主な内容	特徴的な事項
(行政サービス活動支出) 地区敬老行事補助金 42,973千円 シルバー人材センター補助金 20,128千円ほか	

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
65歳以上高齢者1人あたりのコスト	平成29年度	-	円	令和2年3月31日現在の吹田市65歳以上人口で算出し、令和元年度は1人あたり、3,172円のコストがかかっています。
	平成30年度	-	円	
	令和元年度	89,136人	3,172円	
	平成29年度	-	円	
	平成30年度	-	円	
	令和元年度	-	円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A	勘定科目	平成30年度末 A	令和元年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	-	22,526	22,526
流動資産	-	-	-	地方債	-	982	982
未収金	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	-	4,381	4,381
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	-	-	-
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	17,164	17,164
事業用資産	-	1,445,144	1,445,144	固定負債	-	249,376	249,376
有形固定資産	-	1,445,144	1,445,144	地方債	-	19,686	19,686
土地	-	917,015	917,015	長期借入金	-	-	-
建物・工作物	-	528,130	528,130	退職手当引当金	-	40,891	40,891
リース資産	-	-	-	リース債務	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	その他固定負債	-	188,799	188,799
無形固定資産	-	317	317	負債の部合計	-	271,903	271,903
インフラ資産	-	-	-	純資産	-	1,173,558	1,173,558
有形固定資産	-	-	-	重要物品	-	-	-
土地	-	-	-	図書館資料	-	-	-
建物・工作物	-	-	-	投資その他の資産	-	-	-
建設仮勘定	-	-	-	出資金	-	-	-
重要物品	-	-	-	長期貸付金	-	-	-
図書館資料	-	-	-	基金	-	-	-
投資その他の資産	-	-	-	徴収不能引当金	-	-	-
出資金	-	-	-	その他債権	-	-	-
長期貸付金	-	-	-	資産の部合計	-	1,445,461	1,445,461
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
負債及び純資産の部合計	-	1,445,461	1,445,461				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

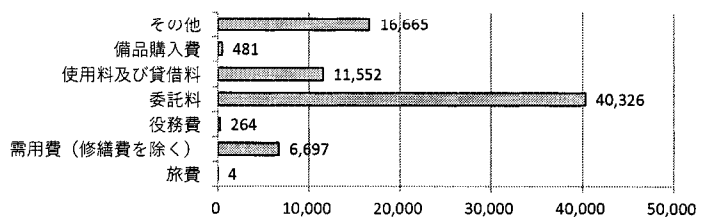
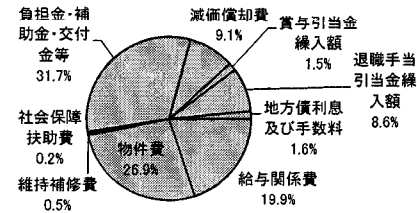
事業従事人数	常勤・再任用	非常勤	臨時雇用員	審議会委員等	合計(千円)
	月平均	月平均	年間従事延日数	実人数	
	6.57 人	1 人	221 日	5 人	
給与関係費等	79,277 千円	3,833 千円	1,926 千円	84 千円	85,119
内、時間外勤務手当	3,404 千円				

貸借対照表の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	増減理由

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	高齢者いきいの間 ほか
取得年月日	昭和56年(1981年)5月1日ほか
建物・工作物の取得価額	1,123,114 千円
建物・工作物の減価償却累計額	594,984 千円
利用料金収入	- 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成29年度	平成30年度 A	令和元年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		-	-	0.1	0.1
施設老朽化比率		-	-	53.0	53.0
受益者負担比率		-	-	-	-
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	-	92.4	92.4
経常費用対公共資産比率		-	-	25.2	25.2

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.0%】

IV 総括

▽分析結果の説明

昨年度、総合計画に沿った管理事業の見直しを行い、高齢者生きがい事業として事業を再編したため、過年度のデータが表示されていません。減価償却により資産(建物)が減少しています。建物の老朽化比率は53.0%となっており、市保有施設全体の老朽化比率(57.0%)を4.0ポイント下回っています。経常費用の約2億8千万円のうち、負担金・補助金・交付金等が31.7%、物件費が26.9%、給与関係費が19.9%を占めています。物件費のうち委託料が最も多くなっており、高齢者生きがい活動センターの施設管理委託料が12,751千円、千里ニュータウンプラザの施設管理委託料が11,764千円となっています。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

高齢者生きがい事業の多くを占める負担金・補助金・交付金等の経費は、高齢化の進展に伴い、今後も増加していくものと考えています。費用対効果の検証を継続して行い、持続可能な事業実施となるよう、事業のあり方を検討していく必要があります。既存施設の老朽化に伴う維持補修費は今後も増加するものと考えていますが、限りある財源の中、計画的な修繕及び備品更新計画を立て、予算の確保を行い、効率的・効果的な維持補修を行っていく必要があります。